

研究主題「特別な支援が必要な幼児の成長を支える教師のかかわり方の工夫 －『^{*}気づきのシート』(幼稚園版)の作成、活用を通して－

※「気づきのシート」(「特別支援教育に関する研究」で開発された実態把握シート<教職員研修センター平成18年度>)

東京都教職員研修センター研修部教育開発課
文京区立第一幼稚園 教諭 河合優子

I 研究のねらい

平成19年度より特別支援教育が本格実施され、発達障害等の早期発見、早期支援が求められている。東京都教育ビジョン(第2次)及び東京都特別支援教育推進計画第二次実施計画においては、教員の資質・専門性の向上、幼稚園における特別支援教育体制の整備、特別支援教育コーディネーターの指名などが示された。

東京都の公立幼稚園の現状を文部科学省の調査結果から見ると、すべての項目で前年度を上回っている。このことから、特別支援教育への関心が高まる中、支援体制の整備が着実に進んでいることが分かる。

(図1)

また、平成20年3月告示の新幼稚園教育要領には「障害のある幼児の指導に当たっては、集団の中で生活することを通して全体的な発達を促していくことに

配慮し、(中略)個々の幼児の障害の状態などに応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的、組織的に行うこと」とこれからの幼児教育における障害のある幼児への指導の充実が示された。

そこで本研究では、特別な支援が必要な幼児の実態を的確に把握し、個々の幼児の状態などに応じた支援の工夫について検討し、適切な支援を行うことをねらいとした。

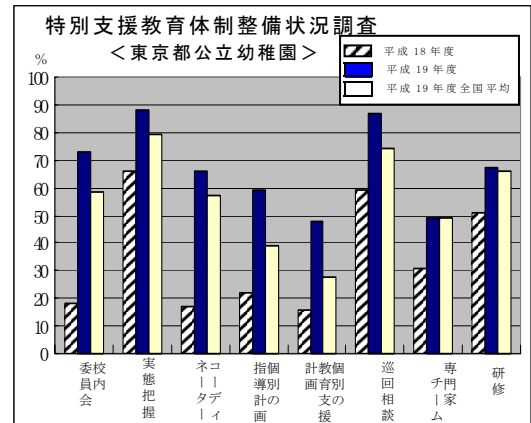


図1 特別支援教育体制整備状況調査

研究の仮説

実態把握のためのシートを用いて幼児の実態を的確に把握し、発達や障害などの特性に応じた支援及び周囲の幼児との相互のかかわりを促す支援をすることで、対象児は集団の中で情緒を安定させ、もてる力を十分に発揮していくことができる。

II 研究の内容と方法

1 基礎研究

(1) 学級担任の役割

学級担任には、障害の診断の有無にかかわらず幼児の感じている困難さに気づき、それぞれの発達や障害の特性に応じて支援することが求められる。また、対象児と周囲の幼児の関係を相互に促すこと、園内の共通理解を図ること、保護者や関係諸機関との連携を進めることなど、学級担任は多様な役割を自覚して、特別支援教育を推進していくことが重要である。

(2) 適切な実態把握

幼児の発達や特性に合った指導内容や方法を考えるために、多面的、客観的な視点から幼児の実態を把握することが重要である。適切な実態把握のために、幼児の発達をより細かくとらえる視点や発達障害等の早期発見、早期支援の視点が必要である。

(3) 集団における支援

周囲の幼児や教師などのかかわりは、対象児の成長を促すための重要な環境である。教師は、学級のだれもが必要な時に助けてもらえる関係づくりを進め、その中で対象児が周囲の幼児から多くの刺激を受けたり、様々な場面に応じた対処の仕方を学んだりできるようにする。また、周囲の幼児も対象児との出会いを通して、互いのよさや違いを感じて受け止める機会が増えることを生かし、周囲の幼児が対象児への理解を広げられるようにする。個と集団の双方への支援が、特別支援教育を推進する上で重要である。

2 指導法の開発、検証

(1) 「気づきのシート」(幼稚園版)の作成

東京都教職員研修センターでは、平成 18 年度教育課題研究「特別支援教育に関する研究」の中で、幼児、児童の実態を把握する「気づきのシート」を開発している。これを基に幼児の実態把握に焦点化し、必要な情報を 1 枚の資料の中で見られるように、観察項目の統合や修正及び、発達障害等の特性に関する項目、実態の背景や集団とのかかわりを記入する欄を設けて改善を図り、「気づきのシート」(幼稚園版)を作成した。(図 2)

特徴は、「気づきのシート」(幼稚園版)への記入を通して、幼児の全体的な発達を客観的に把握した上で、支援すべき項目に焦点化して具体的な支援の方法を検討できること、実態を多面的に把握することで、日々の保育の中では気づきにくい幼児の姿をとらえ、一人一人の発達や障害の特性等に応じた支援を行うことができること、である。

対象幼児()	記入者()	確認実施日		月 日	支援の評価	
		確認実施日	評価実施日			
観 点 社 会 性 に 関 連 す る こ と	項目 集団に参加すること	具体的観察内容例 ○決められたルールや役割を守って遊ぶ。 □一人遊びを好み、友達と遊ばない □集団での指示が分かりにくい □質問が終わらないうちに答えてしまう など	特記する行動 □注目してほしい □経験不足 □成功体験・楽しかった □体験の不足となるよ □思わぬ環境、活動が準備 □さなれていない □その他	支援についての確認 □支援が必要 □長所として生かす支援 □困難な面を補う支援		具体的な支援方法 □環境・教材の工夫 □分かりやすいかかわり方
				必要性 □環境・教材の工夫 □分かりやすいかかわり方	観 点 □終了 □継続 □見直し	

図 2 「気づきのシート」(幼稚園版)

(2) 保育観察による有効性の検証 (2 年保育年長 5 歳児学級: 9 月から 11 月 週 1 回)

観察対象児 2 名 < A 児: 障害の診断が出ている幼児 B 児: 行動や社会性の面で担任が気になる幼児(ここでは、保護者が外国人の方で、日本語の指導を必要とするケース) > について、「気づきのシート」(幼稚園版)を用いて実態を把握する。これに基づき、幼児の発達や障害の特性に応じた支援と、集団とのかかわりにおける支援を明らかにして保育に生かす。評価としては、幼児の変容を行動観察によってとらえ、支援方法と作成したシートの有効性を検証した。

(表 1)

表 1 気づきのシートの項目による幼児の変容(抜粋)

対象児	<観察項目> 特記する行動	背景と思われる要因	具体的な支援方法	幼児の変容
A 児	<操作・作業に関すること> ペンカチや折り紙を 3 等分に折ること、指で物を叩いて音を出すことを好み、繰り返す。折る素材は限られる。	・環境や行動が常に同じだと安心する。 ・素材に触れる機会が少なかった。	・広告紙、京花紙など、今までに扱ったことのない素材を近くにおいておく。 ・時機を見て、教師が楽しそうにやってみせたり、A 児が触れるよう促したりする。	・広告紙など、様々な紙に触れるようになった。気持ちが向くようになった。
	<小集団> 周囲の友達の様子が視界に入っている所に行き、しばらくその中で過ごす。	・周囲の友達への関心が見られるようになってきている。	・時機を見て、戸外など友達がいる場所に、出られるように促す。	・年少児の遊びの場や、踊っている場に入って、15 分ほど過ごせる時がある。継続性はないが、行った先でかかわりが生まれている。
B 児	<他者とかわること> 周囲の友達の様子が視界に入っている所に行き、しばらくその中で過ごす。	・友達とかかわる経験が不足している。 ・友達との関係の中で日本語を使うことにまだ慣れていない。	・本児の思いを聞き、教師が代弁したり、B 児が自分で言えるように促したりする。 ・必要な場面を、具体的に知らせていく。	・欲しい時に「貸して」、嫌な時に「やめて」などと、言えるようになった。行動も落ち着いてきた。

<p><小集団> 友達と一緒にいること自体が楽しく、追いかけ。初めは逃げている幼児も喜んで、いつまでも繰り返すことで嫌になり、拒否する。</p>	<p>遊びたい気持ちが強いが、友達の言葉や行動を意識しながら、一緒に遊びを楽しむ経験が少ない。</p>	<p>・二人の間での親しい関係を結び、相手を意識しながら、一緒に遊ぶ楽しさを味わえるようにする。</p>	<p>・気の合う友達ができたことで、二人で遊ぶ楽しさを感じて、誘い合って遊ぶようになった。</p>
---	---	--	---

「気付きのシート」を用いて把握した実態や幼児の行動の背景などをおさえ、特性に応じた支援を行うことで、対象児の変容が見られた。

(3) 検証保育「宝探しゲーム」(2年保育年長5歳児学級:11月13日、11月20日)

幼児同士のかかわる方法を広げたり、対象児とかかわるきっかけにしたりするために、対象児の実態に即した活動(「気付きのシート」で把握した実態及び支援に基づく)を学級全体に取り入れ、集団で楽しむ工夫をした。

① 活動の意図

- A児** 絵(写真)カードを学級全体で使うことにより、園生活で利用する機会を増やし、A児の思いの表出や、周囲の幼児や教師などのかかわりを広げることにつなげる。
- B児** 視覚教材の使用、話さずにゲームを行うという行動の制限があることで、B児が興味を持続し、相手の表情や行動に注目して友達と一緒に活動することにつなげる。
- 学級** ゲームを通して、絵(写真)カードを使って相手に思いを伝えることを経験し、A児とのかかわりの方法を広げる機会にする。

② 活動の概要

<p>ゲームの流れ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 グループ(4人)の中で、各自の宝カードを決める。 2 絵(写真)カードを使って、行き先を相談して決める。 3 グループの友達と一緒に、宝を探す。 4 全員の宝カードが見付かったら、保育室に戻る。 5 《2日目のみ》「最終問題」(握手、抱っこなどの行動の絵カードと、大人の顔写真のカードから、だれと何をするのかを考えて行う)をする。 	<p>ゲームの決まり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絵(写真)カードを使って、行き先を決める。 ・できるだけ話さない。 ・グループの友達と一緒に行動する。
--	--

③ 教材の工夫

- 宝カード** どの幼児にも身近で分かりやすい物で、はっきりとした色づかいの絵を使う。A児の好きな果物の絵を使い、意図的にA児の宝カードにする。
- 最終問題** A児の傾向(大人とのかかわりで安定する、指で叩いて音を出すことを好む)を生かす。
- 写真カード** A児が通常の保育中に使用しているカードを、意図的に活用する。

④ 幼児の姿

2回の活動での幼児の姿を、A児を中心として撮影したビデオの分析による、関心やかかわりに関する回数の集計及び行動観察によりまとめた。(図3)(表2)

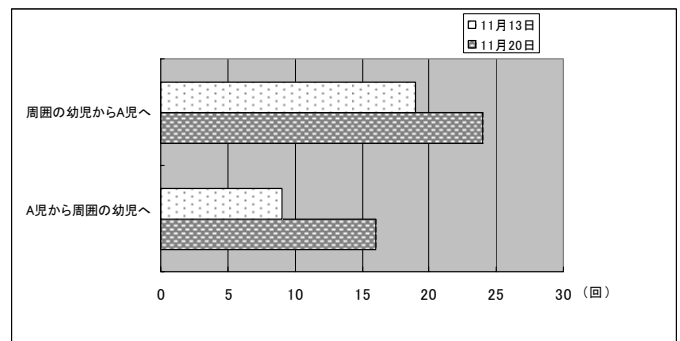


図3 関心やかかわりに関する回数

表2 行動観察による幼児の姿

A児	B児	学級の幼児
<ul style="list-style-type: none"> ・支援者と共に、宝カードや絵(写真)カードに触る。 ・活動全体への参加は難しいが、部分的にグループの友達と手をつないで行動する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師の話やゲームに、集中して取り組む。 ・宝探し時に、友達の示す絵カードやジェスチャー 	<ul style="list-style-type: none"> ・絵(写真)カードを使ったやりとりがスムーズになる。グループの友達と一緒に、宝を探したり、「最終問題」を

<ul style="list-style-type: none"> ・ 2日目の「最終問題」では、グループの友達と共に、握手、指で叩いて音を出すことができる。 ・ グループごとの発表時には同じ場において、手を叩いて笑顔で跳ねる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ に注目し、一緒に活動する。 ・ 保育室に戻ってから、グループの友達と一緒に絵カードを使って遊ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 考えて達成したりし、満足感を味わう。 ・ グループごとの発表時に、A児の様子を笑顔で見たり、一緒に飛び跳ねたりする。
<p>活動後の様子 当日の弁当の支度の時に、学級の幼児が保育室にある絵カードを使ってA児に誘いかけ、A児が応じる様子が見られた。ただし、A児の行動はその日や場の状況による変化が大きいため、活動が行動を促したかどうかについては、今後の検証が必要である。</p>		

⑤ 考察

- A児** 支援者と共に部分的にグループや学級の活動に参加し、笑顔が見られた。A児の特性に応じた絵カードや課題(指で叩いて音を出す行動)は、支援として有効だった。
- B児** 視覚教材や、できるだけ話さないという行動の制限は、B児が話や活動に集中し、グループの友達を意識しながら一緒に活動する上で有効だった。また、宝カードは、ゴール後も友達と一緒に落ち着いて遊ぶことのきっかけにもなった。
- 学級** 同じ場で同じ活動をしたことで、A児に宝カードの場所を教えるなど、対象児に関心を向ける機会が増えた。共に楽しめる活動の工夫や、学級での活動や経験を、その後の周囲の幼児の自発的なかかわりにつなげていく教師の支援が大切である。

Ⅲ 研究の結果と考察

1 「気付きのシート」(幼稚園版)を活用した成果

- (1) 対象児の全体的な発達を客観的に把握し、必要な支援を焦点化できることが分かった。
- (2) 対象児への理解を深めることで、複数の教師、支援者等の間で支援の方向性や方法を共有できることが分かった。
- (3) 対象児と周囲の幼児とのかかわりの実態を把握した上で、個と集団の双方への適切な支援につなげることができた。

2 「気付きのシート」(幼稚園版)の活用による支援体制の構築

記入した「気付きのシート」から、個別指導計画の作成、日々の連携のための「つながりのシート」の作成などを通し、幼児の実態や支援の方法を明確にして園内の共通理解を図ることができる。また専門機関、就学先、保護者との連携の際には、「気付きのシート」を基礎データとして活用することができる。これらのことにより支援体制が確立し、対象児の成長を支えることができる。 (図4)

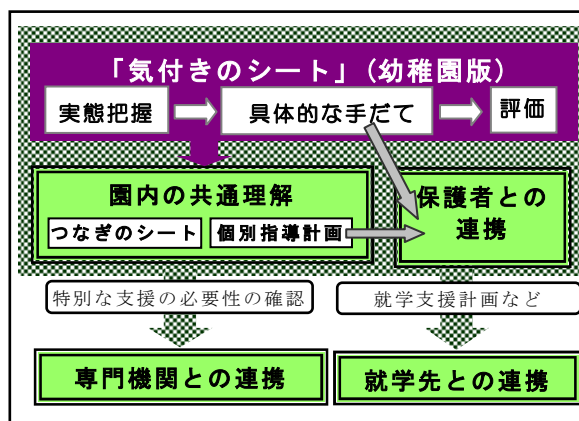


図4 「気付きのシート」(幼稚園版)活用モデル

Ⅳ 今後の課題

- より適切に対象児の特性に応じた支援ができるよう、「気付きのシート」(幼稚園版)の工夫、改善を図っていく。
- 対象児と共に生活する中で周囲の幼児が経験することを踏まえ、相互のかかわりを生かした集団への支援を工夫していく。
- 「気付きのシート」(幼稚園版)活用モデルに基づき、連携先(園内支援者・保護者・専門機関・就学先など)との具体的な連携の在り方を検討、実施する。

研究主題 「特別な支援が必要な幼児の成長を支える教師のかかわり方の工夫

※
 - 『気づきのシート』(幼稚園版) の作成、活用を通して -」

※ 『気づきのシート』(「特別支援教育に関する研究」で開発された実態把握シート<教職員研修センター平成18年度>)

東京都教職員研修センター研修部教育開発課
 文京区立第一幼稚園 教諭 河合優子

【補助資料1】「気づきのシート」(幼稚園版) * 各項目の内容は抜粋

対象幼児		記入者		確認実施日	平成 年 月 日	支援の評価	
観点	項目	具体的観察内容例 <small>※念慮内の項目に当てはまることが多い、変更が見られないなどの場合は、専門機関との連携を検討する。</small>	特記する行動 (よき、気になること)	背景と思われる要因	評価実施日		平成 年 月 日
					支援についての補償		具体的支援方法
				必要性	観点		
社会性に関する観点	集団に参加すること	<input type="checkbox"/> 決められたルールや役割を守って遊ぶ <input type="checkbox"/> 一人遊びを好み、友達と遊ばない <input type="checkbox"/> 集団での指示が分かりにくい など		<input type="checkbox"/> 注目してほしい <input type="checkbox"/> 経験不足 <input type="checkbox"/> 成功体験や楽しかった体験の不足 <input type="checkbox"/> 思わずやりたくなるような環境、活動が準備されていない <input type="checkbox"/> その他	<input type="checkbox"/> 支援が必要 <input type="checkbox"/> 長所として生かす支援 <input type="checkbox"/> 困難な面を補う支援	<input type="checkbox"/> 環境・教材の工夫 <input type="checkbox"/> 分かりやすいかかわり方	<input type="checkbox"/> 終了 <input type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 見直し
	感情をコントロールすること	<input type="checkbox"/> 嫌なこと、気になることがあってもこだわらず、気持ちの切り替えができる <input type="checkbox"/> かっとなりやすく、衝動的な行動が目立つ <input type="checkbox"/> 順番を待つのが難しい など		<input type="checkbox"/> 注目してほしい <input type="checkbox"/> 不安や嫌悪事項からの逃避 <input type="checkbox"/> 自分の気持ちを分かってもらえない <input type="checkbox"/> 同じような場面でうまく乗り越えた経験が少ない <input type="checkbox"/> その他	<input type="checkbox"/> 支援が必要 <input type="checkbox"/> 長所として生かす支援 <input type="checkbox"/> 困難な面を補う支援	<input type="checkbox"/> 環境・教材の工夫 <input type="checkbox"/> 分かりやすいかかわり方	<input type="checkbox"/> 終了 <input type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 見直し
	他者とかかわること	<input type="checkbox"/> 友達の頑張っていることやよさに気付く <input type="checkbox"/> 共感性が乏しい <input type="checkbox"/> 友達とのトラブルが多い <input type="checkbox"/> 一方的で偏った内容の話をする など		<input type="checkbox"/> 注目してほしい <input type="checkbox"/> 経験不足 <input type="checkbox"/> 同じような場面でうまく乗り越えた経験が少ない <input type="checkbox"/> 自分の行動を客観的に振り返ることが難しい <input type="checkbox"/> その他	<input type="checkbox"/> 支援が必要 <input type="checkbox"/> 長所として生かす支援 <input type="checkbox"/> 困難な面を補う支援	<input type="checkbox"/> 環境・教材の工夫 <input type="checkbox"/> 分かりやすいかかわり方	<input type="checkbox"/> 終了 <input type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 見直し
遊びや生活にかかわる態度・能力に関する観点	運動に関する観点	<input type="checkbox"/> 目標物に向かって、まっすぐ走る <input type="checkbox"/> 走ったり跳んだりするとき、手足の動きが不自然 <input type="checkbox"/> 動作やジェスチャーがぎこちない など		<input type="checkbox"/> 空間関係(自分自身の身体の真中・左右・上下を知覚したり、身体の部分的な動きを知覚すること)の認知が難しい <input type="checkbox"/> 視覚(視力、見え方等)に課題がある <input type="checkbox"/> その他	<input type="checkbox"/> 支援が必要 <input type="checkbox"/> 長所として生かす支援 <input type="checkbox"/> 困難な面を補う支援	<input type="checkbox"/> 環境・教材の工夫 <input type="checkbox"/> 分かりやすいかかわり方	<input type="checkbox"/> 終了 <input type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 見直し
	身辺自立に関する観点	<input type="checkbox"/> 決められた場所に所持品を置いたり、元の場所に戻したりする <input type="checkbox"/> 極端な偏食がある <input type="checkbox"/> 忘れ物、なくし物が多い など		<input type="checkbox"/> 注目してほしい <input type="checkbox"/> 聞いた内容ややり方が分からない、覚えてもらえない <input type="checkbox"/> 何をどのようにするのか、見える情報で分かりやすく伝えられていない <input type="checkbox"/> その他	<input type="checkbox"/> 支援が必要 <input type="checkbox"/> 長所として生かす支援 <input type="checkbox"/> 困難な面を補う支援	<input type="checkbox"/> 環境・教材の工夫 <input type="checkbox"/> 分かりやすいかかわり方	<input type="checkbox"/> 終了 <input type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 見直し
	行動に関する観点	<input type="checkbox"/> 自分で決めることができる <input type="checkbox"/> 得意、不得意が極端である <input type="checkbox"/> 行動をコントロールするのが苦手 など		<input type="checkbox"/> いろいろな刺激に影響を受けやすい <input type="checkbox"/> 聴覚、触覚、味覚などの感覚に独自性や過敏性がある <input type="checkbox"/> 常に同じだと安心する(同一性保持がある) <input type="checkbox"/> その他	<input type="checkbox"/> 支援が必要 <input type="checkbox"/> 長所として生かす支援 <input type="checkbox"/> 困難な面を補う支援	<input type="checkbox"/> 環境・教材の工夫 <input type="checkbox"/> 分かりやすいかかわり方	<input type="checkbox"/> 終了 <input type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 見直し
	認知・言語に関する観点	<input type="checkbox"/> 自分が見たことや楽しかったことなどを言葉にして話す <input type="checkbox"/> 3語文を話さない <input type="checkbox"/> しりとりやなぞなぞが苦手 など		<input type="checkbox"/> 経験不足 <input type="checkbox"/> 推測することが難しい <input type="checkbox"/> 視覚(視力、見え方など)に課題がある <input type="checkbox"/> 知的な遅れがある <input type="checkbox"/> その他	<input type="checkbox"/> 支援が必要 <input type="checkbox"/> 長所として生かす支援 <input type="checkbox"/> 困難な面を補う支援	<input type="checkbox"/> 環境・教材の工夫 <input type="checkbox"/> 分かりやすいかかわり方	<input type="checkbox"/> 終了 <input type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 見直し
操作・作業に関する観点	<input type="checkbox"/> 曲線に沿ってはさみで切る <input type="checkbox"/> 極端に不器用である <input type="checkbox"/> 人の顔や体などが、年齢相応に描けない など		<input type="checkbox"/> 経験不足 <input type="checkbox"/> 成功体験、楽しかった体験の不足 <input type="checkbox"/> 活動や課題が難しすぎる <input type="checkbox"/> 目と手を協応させることが難しい <input type="checkbox"/> その他	<input type="checkbox"/> 支援が必要 <input type="checkbox"/> 長所として生かす支援 <input type="checkbox"/> 困難な面を補う支援	<input type="checkbox"/> 環境・教材の工夫 <input type="checkbox"/> 分かりやすいかかわり方	<input type="checkbox"/> 終了 <input type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 見直し	
周囲の幼児とのかかわり	小集団の様子(遊び、生活グループなど)		学級集団の様子				
	<特記すること>		<特記すること>				
<input type="checkbox"/> 支援が必要 <input type="checkbox"/> 長所として生かす支援 <input type="checkbox"/> 困難な面を補う支援		<具体的な支援方法> <input type="checkbox"/> 環境・教材の工夫 <input type="checkbox"/> 本人へのかかわり方 <input type="checkbox"/> 周囲の幼児へのかかわり方		<input type="checkbox"/> 支援が必要 <input type="checkbox"/> 長所として生かす支援 <input type="checkbox"/> 困難な面を補う支援		<具体的な支援方法> <input type="checkbox"/> 環境・教材の工夫 <input type="checkbox"/> 本人へのかかわり方 <input type="checkbox"/> 周囲の幼児へのかかわり方	

手だてのシート

※教職員研修センター平成18年度「特別支援教育に関する研究」で開発された「支援方法確認シート」を基に作成。
 ※具体的な支援方法の工夫例を一覧にしている。支援方法を検討する際の参考にする。また、実践したことを振り返り、その後の支援方法の工夫・改善を行うことが重要である。

【一人一人を対象とする支援】

項目	具体的な支援方法の工夫例
環境・教材の工夫	一人一人の発達に合った教材・教具・遊具を用意する。 活動内容や教材・教具・遊具の正しい使い方を視覚的に確認できるように、絵や図、写真などを表示する。 これから使う物や使い終わった物などが区別できるように色紙やテープを貼るなどして表示したりする。 一日の予定を分かりやすく表示する。 活動を妨げるような音を出さない配慮をする。 教師の説明や指示が分かりやすくなるように、座る位置を設定する。 幼児が落ちくることができないような遊具や自然環境（小動物、花壇、池など）を把握する。 一度に複数の指示を出さない。 自分から進んで行動した時や小さな成功を褒める。 うまく表現できないことは教師が代替したり、共感の言葉かけをしたりして、表現する意欲を高める。 幼児が自分のペースで話ができるように、ゆっくり話したり聞いたりする。 状況に合わせた言葉や振舞い方を、短く具体的に指導する。 自分勝手な言動や要求をした時は、その場で分かりやすく注意し、理由を確認する。 幼児が指示や注意を受け入れやすいような距離や接し方で対応する。 手順や活動内容を簡単な言葉で伝え、表や図、カードを用意したり、動作化を取り入れたりする。 幼児と一緒に教材・教具を使いながら、正しい使い方を確認する。 「どんまい」「失敗は成功のもと」など、気持ちを立て直す言葉やきっかけを、分かりやすい言葉にする。 活動をやり終えるまで見守る。 「はい」「真して」「ありがとう」など、時と場合に応じた言葉遣いを指導する。 順番を待ったり、並んだりする活動を遊びや生活の中で繰り返す。 遊びや課題活動の様々な場面で選択肢を用意し、自分に合う課題や手順を選べる機会を設定する。 遊びやゲームのルールを分かりやすく整理したり、明確になるようにしたりする。 図や音楽などを活用して、音のたまたまのきっかけを分かりやすくする。 遊びや課題活動の様々な場面で選択肢を用意し、自分に合う課題や手順を選べる機会を設定する。 やり遂げた達成感を味わえるように、課題や役割を段階的に増やしたり、完成までの過程を徐々に長くしたりする。 活動の間に気分を切り替えられるような時間を設定する。 園後の遊びや生活の様子を把握する。 学年会などで日常的に幼児の様子や指導について、教師同士で情報交換をする。 保護者の話をじっくりと聞き、悩みや希望を受け止め、今後の支援について保護者と一緒に考える。
幼児への分かりやすいかかわり方	表情や態度、言葉遣い 生活習慣 課題解決 情報の把握

【手だてのシートを活用に当たって】
 1 「一人一人を対象とする支援」とは、特別な支援が必要な幼児一人一人への支援を行うことにより、学級全体への効果も期待できるものである。
 2 「集団を対象とする支援」とは、遊びや生活グループ、学級全体への支援を行うことにより、特別な支援が必要な幼児一人一人への効果も期待できるものである。
 3 「一人一人を対象とする支援」「集団を対象とする支援」に共通する具体的な支援方法の工夫例もある。両方の視点で支援方法を考えることが重要である。

【集団を対象とする支援】

項目	具体的な支援方法の工夫例
環境・教材の工夫	幼児の人間関係や活動の内容を考慮してグループ作りをする。 グループ活動は2・3人組から始め、少しずつ人数を増やしていくなど、構成の工夫をする。 自分たちで準備、片付けができる時間を設定する。 遊びや活動で使う用具などは、幼児が活動しやすいように準備する数や場所を工夫する。 行動や活動を繰り返す、自分の努力や成長を確認する機会を設定する。 保育室内や教材・教具・遊具などが安全であるか確認する。 保育室の照明の明るさを確認する。 掃除をしたり、窓を開けたりして保育室をきれいに整える。 幼児の作品や表示など、掲示物を整える。 時計や表示を、幼児・児童が見やすい位置に設置する。 「うなすく」「ほほえむ」「相づちを打つ」などの具体的な動作で対応する。 朝は、一人一人に声をかけながら迎える。 一人一人の行動の背景や思いを受け止め、互いの違いを受け入れられるようにする。 困った時には誰でも助けてもらってよいことを体験できるようにする。 友達の良いことや面白いことを、「共通項」としてみんなと一緒に楽しむ機会をつくる。 望ましい行動が現れた時には、その場で褒めたり全体に紹介したりする。 幼児・児童の活動に対して、一貫した態度で褒めたり注意したり、見守ったりする。 毎日、お互いに朝や帰りのあいさつを行う。 朝の会や帰りの会、昼食の準備や片付けなど、いつを行うことは進め方を一定にする。 状況に応じた話し方を指導する。 場に応じた正しい姿勢で座り、話を聞いたり活動したりするように指導する。 お互いに名前を呼び捨てにしないように指導する。 活動予定に変更がある時は、あらかじめ予告する。 活動の流れや決まりをあらかじめ明確に伝えてから活動を行う。 集団の課題をあらかじめ把握し、こまめに言葉かけを行う。 指示や説明は、簡単な言葉で伝え、図やカードを用意するなど、誰にとっても分かりやすくする。 個人面談や家庭訪問、保護者会の進め方を工夫する。 取組を、園・学級の便りなどで保護者に伝える。
幼児への分かりやすいかかわり方	学級の雰囲気 学級のルール 指示・声かけ 家庭域・協働力

